

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年5月13日

事業所名 ぶるーべりー石橋

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0.714	0.286	収納	作業時は良いが、運動時にもう少し広くとれるようにスペースを確保する
	2 職員の配置数は適切である	0.286	0.714	役割分担	決して十分とは言えず、人員は欲しいところである
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	0	意識誘導	目に見えての障壁は見られないので行動の中での意識を高めてもらう
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	0	ミーティング	全体での話し合いを設け、改善を図っている
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0	1		継続的に行っておらず、習慣化していない 時期的なものになってしまっている
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	0		ホームページに掲載 特に変更などは考えていない
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	1		外部評価を行っていない 検討はしているが具体的に定まっていない
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	0.714	0.286	定期開催	内外問わず研修の機会は設けている 状況的に外部での研修の機会が減ってはいる
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	1	0	保護者・他機関との連携	形が定まっている際に 流れ作業のようになることがある 毎回真摯に行おう
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	0	独自の物	見て伝わりやすい物を心掛けている 但し量が多く改良は必要
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	1	0	定例化	職員全員で毎月行っているが発案に悩むこともあり、 発案数を減らすなど緩和は必要
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	0	定例化	皆で発案したものを組み合わせたり バラエティーに富んでいると思う
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	0.857	0.143	ミーティング	月例・日々のミーティングで行う 長期休暇などは疎かになることもあるのでLINE 等活用していく
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1	0		アセスメント同様流れ作業にならないよう 注意する
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1	0	ミーティング	日々行っていることもありルーティン化しているが 慣れから簡易になることがあるので注意する
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	0	情報共有	ミーティングを行い振り返る 参加できなかった際や振り返りやすいように LINEなどに残し気軽にいつでも見られるようにしている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1	0	情報共有	上記同様、LINEなどに残しており目を通す機会も 持ちやすいので改善等に有効と思われる
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1	0		児童の状態によっては期間を変えることはある 特別なことをしているということはない
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	0.5	0.5		すべてを賄えているとは思いません 少しずつ沿った形を作っていく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	0		毎回同じ参加者であるが変更が必要とは思わない
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	0.286	0.714		学校と、というよりは保護者とのやり取りがメインになっている 学校によって違いはあるが密であるとは言えない 構築していくようにしていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1		医療的ケア児の受け入れをしていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0.429	0.571	早期対応	顔合わせ、情報共有、体験利用と2・3か月かけて本利用に向けている 活動を圧迫しないよう時間帯や人数には配慮が必要
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0.5	0.5	経験が必要	事業所に合わせており、利用児により頻度の差がある。経験数も少なく試行回数が必要である
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0.143	0.857		全くないというわけではないが機会は非常に少ない 関係性や連携向上のため、機会は増やしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0.143	0.857		スタッフの子供、利用児の兄弟位である 現状求められていない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	1		参加経験はない 調べても関係市町村では活動していないように思われ何に参加すればよいのか?
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	1	0	送迎時	どこもそうであろうが送迎時に最も伝達しよう 内容によっては電話相談や面談を行う
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0.286	0.714		要望に応じてがメインであり、こちらから願うことは少ない 家では家の過ごし方で良い気もする	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	0	嚙砕いての説明	サービス初利用者に対しては特に意味が分かりやすいように心掛けている その後に質問等ないので伝わっていると思う
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1	0		送迎時や電話など伝えていただける機会は多いと思われる 対応できている結果と思いたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	イベント	プログラムに参加イベントを設定し行っているが 今年度に関しては状況もあり行えていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	1	0		契約時は勿論のこと保護者に伝えてはいるが 幸いなことに実働はしていない
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	1		月のプログラムや特記事項を渡すぐらいで、会報といえるようなものは提供していない 欲している声も聞かない
	35	個人情報に十分注意している	1	0		労働契約時に個人情報について交わしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	1	0		情報交換や相談等応じている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1		交流がないわけではないが、招待するといったことは行っていない。保護者の求めもない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0.857	0.143		保護者はマニュアルがあることは知っているが内容に関しては目を通したことはない 配布を検討する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	0		設定など変えることで情性しないように心掛けている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	0.857	0.143	研修	外部での研修も受けたいのではあるが時世柄避けている。内部研修では心もとない気もある
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	0		職員間では確認をしている 保護者には必要に応じて説明を行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	1		そういった利用児がいない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	0	掲示	共有と再確認が行い易いように掲示している